

■第28回 み言葉の分かち合い

●第1朗読 使徒言行録4・32～35

誕生したばかりの教会共同体において、土地や建物を売り払っては、そのお金を必要に応じて分配していたので、一人も貧しい者はおらず、「心を一つにして、絶えず神殿に参り、家ではパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美していた。彼らは民全体から好意を得ていた。」(使徒言行録2・46～47)

●第2朗読 1ヨハネの手紙5・1～6

イエスを救い主と信じる者は、神から生まれた者となって神を愛するので、この世で起きることに打ち勝ちます。そして、神を愛する者や神の掟を守る者は、神の子供たちをも愛します。

神の掟とは、「わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ13・34)「神を愛する者は、自分の兄弟をも愛さなければなりません。これが、わたしたちが神から受けた掟です。」(1ヨハネの手紙4・21)

ヨルダン川で洗礼を受け、十字架上で血を流されたイエス。聖霊はこのイエスを信じる信仰者の成長を支え、「聖霊があなた方の上に降るとき、あなた方は力を受け……地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(使徒言行録1・8)このように、聖霊の賜物は、人生を一変させ、聖書への理解も深められます。

●福音書朗読 ヨハネ20・19～31

復活後の8日目にイエスは弟子たちに現れ、イエスの手にある釘の跡を見た弟子たちはどのようなことを思い巡らせたのだろう。イエスは、裏切った弟子たちを咎めることなく、「平和(完全な状態を言う)があるように」と言う。そして、聖霊を弟子たちに授けるために息を吹きかけたので、人の罪を赦す力が与えられた。

イエスはトマスに、「見ないで信じる者になりなさい」との言葉は、現代を生きる私たちが見ないで信じる者になるには、黙想(イメージ)をすればよいし、見えている物(ハード)から、見えない物(ソフト)へと移行行くメッセージの思いがします。

イエスの名により命をうけるとは：

信仰者は、財欲・名誉欲等を出して歩むことなく、誹謗・中傷・陰口を言わず、神の愛と救いの恵みに希望を抱き、聖霊に導かれ、聖書の教えに従って歩むとき、愛の実践(他者が喜ぶこと)ができ、永遠の命へ導かれます。